

— 先生が、アルコール問題の医療の分野に携わろうと決心された理由をおしえてください。

大島先生

この前の見聞録（2020年8月号）には、武蔵療養所（現国立精神・神経医療研究センター病院）というアルコール専門病棟を担当してから関わるようになったと書いてあったけれども、実際は一年経ったら足を洗おうと思っていたんです（笑）。

（療養所を退職して）医大に戻ってから、うつ病の研究をまとめなければいけないので、足を洗おうと思っていたんですけど…。たまたまアルコール依存症の患者さんを、新しく入局した先生が担当することになったんですね。その時に助教授から「指導医にならなさい」ということになって、指導する以上はちゃんとやらなきゃいけないということで…。じゃあ医大で集団療法を始めよう、とか、断酒会や当時無かったAAをどうやって行くか、考えなくちゃいけないと思い始めたんですよ。それが「この分野で関わらざるを得ないかな」とか、「変わっていかなきゃならないかな」というきっかけですかね。

— アルコール専門でやる前とその後では、アルコール依存症へのイメージはどういうふうになりましたか？

大島先生

専門にやる、やらないというよりは、ひとことで言うなら「回復した人に会ったから変わった」、ということなんですよね。

医者になった時は皆目分からないわけだけでも、先輩の先生から聞いたり、実際に診療してみて、アルコール依存症という人たちっていうのは、本当に「よくわからない人」、だったですよ…。大酒飲んで暴れて入院してきて、入院するとニコニコして、いい顔してもう二度と飲みませんと言って帰っていくわけですよ（笑）。早い人は一日で戻って来ちゃったりとか、そういうようなことだから、よくわからない人たち。それから、病院の中でトラブルを起こすんですね。最悪な場合は、病院の中で飲酒したりとかするので…。そして正直じゃないしね、言い訳は上手だし…。ということで関わりたくないなあと思っていたんですけど…。

ただ、一人だけ印象に残っている人がいて、会津の病院にいた時に、酒を何とかやめたい、と来た人がいるんですよ。その時に医者として何もできなかったんですね。「入院でもなんでもさせてください、酒をやめたいんです」と言ったんですけど、やり方も何もわ

からないし…。ただお酒を飲んできた過程の話を聞いて、こういうふうに工夫しましょうと二人で考えていくぐらいしかできなかった、というのがすごく印象に残っていますね。

一番変わったのは国立武蔵療養所にいた時に、上司から「仕事終わった後、自助グループに行ってください。残業手当は出しません」と言われて（笑）、患者さんと一緒にAAや断酒会に行っているいろんな話を聞いたのと、その中でも大きかったのが、AAやMAC（デイケアの施設）がメッセージを届けてくれたんですよ。その時に、ミニ神父が来て、そこにBさんとかNさんが一緒に来て、体験を話してくれるわけですよ。「先生何か質問ある？」と言って、いろいろな質問に答えてくれたりとか。その体験が、まあ、みんなすさまじいんですよ。みんな山谷出身ですから（笑）。その人たちの体験を聞いていると、福島で（先生が）患者さんに騙された体験を、きれいにしゃべっていくんですよ。「こうゆうふうにして医者を騙すんですよ」、とか（笑）。その人たちが酒をやめるわけですよ、しっかりと。約束をちゃんと守って来るわけですよ。それで、「あ、回復できるんだな」と思ったんですよ。それが大きな変化ですかね。



もうひとつイメージが変わってきたのが、外来治療をやるようになってからちょっと別な見方をするようになりましたね。

それまでは、お酒をやめること、自助グループにつながることでそれなりに生活できるようになるのでもいいかなと思っていたんですけど、外来で話していると『生きづらさ』の話の方が多いんですよ。よく考えてみると、アルコール依存症の人たちというのは生きづらさを抱えていて、酒でも飲まないとかやってこられなかった人たちなのかな、と。そこでお酒を取り上げちゃったから生き方を身につけなきゃいけない。その時に、病院でそれができると言ったらできないし、自助グループの中で特に12ステップをやるとかね、そういう中で気づいていくことが大切なのかな…という。依存症への見方が、酒をコントロールして飲めない、というだけの見方じゃなくなってきたというのはありますね。

—— 古いメンバーのBさんやNさんのお話が出ましたが、ほかに印象的な人はいらっしゃいますか？

大島先生

Bさんは武蔵に来ていた時はニコニコしていたけど、ハウス内は厳しいですね。「第一のことは第一に」と言って。ただ、ミニーさんに言わせると、「こいつはスリッパばかりしてたんだ」とか言って…(笑)。私が会った時はもうしっかりされていて…。Nさんもすごく静かだったけど、言うことはしっかりしていて、すごく教えられたんですね。あとは少し問題ある行動があったけど、Kさんという人で、刑務所に何年も入っていて、当時43だったのかな。それで13年刑務所に入っていると言っていて、入退院が40回ぐらいあるかな(笑)。「シャバにいたのがどれぐらい？」って言って…(笑)。その人が医者への騙し方を教えてくれたんです(笑)。「こうやって私は人を傷つけてきたんです」と言って。

それで、そのBさんが郡山にMACを作った時に、準備のためによく来てくれていて、まさかNさんが来てくれるとは思わなくて。で、Nさんが責任者になってくれて、デイケアやってくれて…。最初あさかのグループができたけれども、そこがAAのやり方をちゃんと身に付けていなかったのでもううまくいなくて、郡山グループとしてちゃんとしたグループができてきた、ということがありましたよね。

古いAAのメンバーということと言うと…、まだ福島にAAができていなかったところに施設からAAにつながり回復した人たちが何人かいるんですよ。あるいはまだ基礎がちゃんとできていなかったところに。その人たちは何人か印象に残っていて…、Oさんという女性のメンバーですね。浜通りの病院でお会いして、「私は治療なんか絶対しない！」と言って啖呵を切るんだけど、次の週に行くといけいれん発作をおこしてちゃんと入院していました(笑)。

あとは、アルコール病棟を作るということで郡山に私が赴任してすぐ来た人で…。午後なんですけど待合室がやたら騒がしいんですよ。十何人の人が来てるんですよ。警察官が二人いて、真ん中にこう、縄で縛り上げられた人が一人いて(笑)。そういう人がいたんですね…。彼もいろいろすったもんだした挙句、名古屋のMACにつながって…。去年電話がかかってきて「俺まだ生きてっからよ」と言って(笑)、MACのお手伝いをやっているんだという方がいらっしゃったりとかですね、けっこう面白い人がいっぱい。

その後AAができてからは、東京に行っても戻ってきて、現在頑張っていて、古いメンバーとしてやっている人たちがたくさんいますし、その過程で残念ながら亡くなった方もいるけれどね、でも一人一人本当に人間的に魅力のある人で…。その後は、かなり状況は良くなったのかな、と思っていますね。

—— AAに対してがっかりしたことはありますか。その原因は？

大島先生

最初にね、とまどったのは、東京で仕事をしている時に、MACとAAがもめたことがある…。私も患者さんと(一緒に)行くと、最初和気あいあいしてるんですけど、MACのメンバーがMACのカウンセラーと一緒に来るとガラッと雰囲気が変わるというのがあったんです。MACのカウンセラーが先生になっちゃってたんですよね。平等でなくなっちゃったんです。

立川グループというのがあって、仙台のグループが最初に行ったグループらしいのですが、そこはね、サラリーマンなどの人が多いグループだった。施設(MAC)とは縁のないグループ。そういうグループと意見が合わないわけですよ。聞くところによると大声で喧嘩していた、なんていうこともあって、すごくとまどったんですけど…、こっちに戻ってきて2、3年してから、東京のある方がサービスオフィスなどでいろいろ話し合った結果、「MACは施設で、AAは自助グループ」という話をするようになって…それで、本当に、医者なんかが変に考えるよりも素晴らしい結論を出すんだな、というのを経験したんですね。

あ、ちょっと思い出したけど、AAのサービスオフィスは昔は信濃町にあったんですよ。信濃町にはよく行ってたんです。その時、頬に傷のあるすごい声の人によくしてもらって、いつもコーヒーを出してもらって(笑)…話をしてね(笑)。やくざの世界の話を色々聞かせてもらった(笑)。そのことがすごく印象に残っています。ちょっとしたマンションの一室だったんですけど(笑)。

あと、こちらで仕事をしていてひとつあったのは、郡山グループの人数が多くなってきて、13ステップを一生懸命やろうとする人が増えちゃって、女性を紹介すると、ミーティングに入る前からもうナンパされちゃってみたい形になって…。家族からも苦情がきて、家に帰らなくなっちゃったとか。それで飲んだとか飲まないとかいろんな問題があって、サービスオフィスに、医療機関としてね、「こういうことがあって困っている」と相談したりしたんですけど、サービスオフィスでも、全国的にそういうことがあるからみんなと相談して、というふうにして…。で、しばらくしたらイギリスのグループの文献を持ってきて、こういうふうにやりますって(笑)。それを見せてもらって、ああ素晴らしいな、と思った。自助グループの中の問題には自助グループでやればいいんだな、と。

よく医者の中ではね、自助グループは信用できないから、医者がやらなくちゃいけないと思ってる人がけっこういるんですね。他のグループでも今もあるんですけど。私は自助グループの人は、自分たちでもっといい解決をする力があるんだと思っています。

(次回へ続く)